

## 令和5年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	上越地域難聴幼児支援事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 准教授・小林優子
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市・妙高市・糸魚川市および新潟県内の医療・教育・行政関係各機関 (担当者職名・氏名) 別紙1参照
4 事業の趣旨・目的	上越地域(上越市・妙高市・糸魚川市)および上越市に近接する中越地区(十日町市など)の難聴幼児の発見から就学までの関連諸機関のネットワークを活用し、上越市健康づくり推進課と連携して「子どものきこえ相談室」事業を本学特別支援教育実践研究センターを会場に月1回程度、年間約10回の相談・指導を行う。また、年2回「難聴幼児サポートシステム会議」を開催し、上越市および上越地域に在住する難聴児の難聴幼児・児童・生徒の情報共有、協議の場を提供する。
5 事業活動報告	<p>「子どものきこえ相談室」を5月12日、6月9日、7月14日、8月18日、10月13日、11月10日、1月19日、2月9日の計8回実施し、新規の受付、教育相談・指導および補聴器相談などの継続的なフォローを行った。なお新規相談受付は延べ数で年間6件、継続相談が14件であった(写真1参照)。</p> <p>また、上越市立大町小学校と糸魚川市立東中学校の各難聴通級指導教室を訪問し、聴覚障害児童生徒と保護者を対象に、聴覚障害学生が講師となり障害理解に関する講演会を10月2日、10月16日の計2回開催し、聴覚障害を有する児童や保護者が約30名参加した。</p> <p>令和5年8月30日に第31回、令和5年2月28日に第36回「上越地域難聴児サポートシステム会議」を開催した。第35回・36回ともに対面とオンラインでのハイブリッド方式で行い、それぞれ26名が参加した。</p>
6 本事業で得られた成果	<p>今年度は通級指導教室における活動に学生が2回参加した。聴覚障害学生が自分自身の経験を通級指導教室に通う児童生徒に講演を行った。参加できなかった学生については、期間を設けて講演の様子を撮影した映像を視聴してもらった。講演を行った大学院生にとっては、自分自身の経験を小学生や中学生に伝える貴重な経験と得ることができ、視聴した学生においても、聴覚障害者の聾学校や大学での学校生活の情報を聞くことができたため貴重な機会を得ることができた。きこえ相談においては昨年より新規相談件数が減少したが、継続相談は昨年とほぼ同水準の件数を保ち、地域の難聴児の療育により貢献することができた。上越地域難聴児サポートシステム会議では、各関連諸機関の間で情報交換がなされ各地域の聴覚障害乳幼児の療育や学齢期における支援に関する情報共有がなされた。また、当該会議の折、地域の難聴幼児に対するサポート窓口として別紙1の関係機関の担当者との連絡網を作成した。</p>
7 その他(成果物等の名称)	



写真1 きこえ相談での活動の様子（上越教育大学特別支援教育実践研究センター）